

小学校

s 4-6

4 学年

式と計算

(代金とおつり)

【ねらい】

数量の関係を表す式について理解し、式を用いることができる。

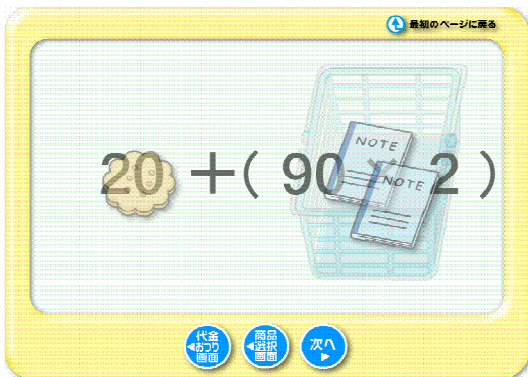
【特徴】

- ◇ 代金を表す式、おつりを表す式をそれぞれ「同じ物を買う」「異なる物を買う」の二つの場面から選べます。
- ◇ ()を同じものを買った場合、や買った物の種類に対応させカゴで表します。
- ◇ 式と具体物に対応させながらとらえることが可能です。

【関連する単元】



【活用場面】 算数的活動の後の検証、知識・技能の定着



四則混合算で乗法先行のきまりの理解に活用できます

代金を求める式で同じ物を買う場面を設定することで、同じ物を買ったカゴに入れ、()で表示することにより、乗法先行のきまりを理解させることができます。

- ◇ 「代金1」を選択し、買うものを2種類3個設定します。
- ◇ 同じものは、買い物カゴに入って表示されます。
- ◇ 「次へ」をクリックすると、具体物は数に買い物カゴは()に変わり、式表示されます。
- ◇ 後に、かけ算は()をつけなくてよいことを指導します。



()の使い方を具体の場面に関連づけて理解させるのに有効です

代金を求める式で異なる物を買う場面を設定することで、同じ店で買う物を買ったカゴに入れ、()で表示することにより、()の意味を理解させることができます。

- ◇ 「代金2」を選択し、買うものを3種類設定します。
- ◇ 同じ店で買う物は、買い物カゴにまとめられて表示されます。
- ◇ 「次へ」をクリックすると、具体物は数に買い物カゴは()に変わり、式表示されます。
- ◇ 具体の場面と結び付けて()の意味を理解させます。



()先行のきまりを具体の場面に関連づけて理解させるのに有効です

おつりを求める式で代金を先に計算する必要性から()先行のきまりを理解させることができます。

- ◇ 「おつり」を選択し、所持金を 1000 円か 500 円のどちらかに設定します。
- ◇ 同じ物を買う場面か、異なる物を買う場面かを設定します。
- ◇ 「次へ」をクリックすると、具体物は数に買い物カゴは()に変わり、式表示されます。
- ◇ 同じ物を買う場面では乗法先行、異なる物を買う場面では()先行が、具体場面に合わせて理解できます。